

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 社会福祉法人聖愛学舎 もみの木保育園若葉台
種 別 ☒ 保育園・幼稚園 ☐ 小学校 ☐ 小中一貫※注1
☐ 中学校 ☐ 中高一貫※注2 ☐ 高等学校
☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校
☐ 特別支援学校
☐ その他（例：小中高一貫）
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む
所在地 〒206-0824
東京都稲城市若葉台 1-54
E-mail wakabadai@mominoki.ed.jp
Website _____
幼児児童生徒数 男子 38 名 女子 34 名 合計 72 名
幼児・児童・生徒の年齢 3 歳～ 5 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

（1）活動の概要（800 字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

1. アヒルの飼育の活動

昨年度アヒルが急死し、今年度のゴールデンウィーク明けにアヒルのヒナを 2 羽飼い始めた。ヒナの時は園内で飼育し、餌やりを職員が行った。子ども達がヒナを見に来て触れ合い、成長を見守っていた。1 羽が病気になり、流動食をあげて、飲み薬を服用する様になった。上手く歩けない姿を見て、「病気なの？」「大丈夫かな？」と心配する姿が見られ、思いやる気持ちが生まれていた。外のアヒル小屋の池でリハビリの為に泳いでいると「気持ちよさそうだね」とアヒルの気持ちを想像して見ていた。園庭をアヒルが歩いていると子ども達がアヒルの羽を触ったり、一緒について歩いたりしていた。初めは強く触ったり、追いかけていたりしていたが、段々と優しく触ったり、そっと見守るようになった。アヒルと関わりながら生き物の触れ合い方を学ぶことが出来た。

夏に 1 羽のアヒルが池で溺れて死んでしまう。土曜の出来事だったためその場を見た児は少なかったが、休み明けに事情を話すと死んでしまったアヒルにも 1 羽残されたもう片方のアヒルに対しても「かわいそう」との言葉が出る。昨年に続き今年もアヒルが急死し、生き物を飼うことの楽しさと命のことを考える時となる。

ヒナが成長し、外のアヒル小屋で飼育するようになってからは主に 3・4・5 歳児クラスの園児と職員がアヒルの飼育に携わり、毎日の餌やりと小屋の掃除を行った。昨年にやっていた子ども達は率先して掃除をして、初めて行う子どもも真似をしながら行っていた。キ

ヤベツなどをちぎる時には「このくらい？」とアヒルが食べやすい大きさにちぎるよう気を付けていた。気持ちよさそうに泳ぐ姿をみたり、自分たちが用意した餌を喜んで食べている姿を見て、小さな命を守る事には自分たち力が必要であること、命について学ぶことができた。



2. 野菜の栽培

乳児クラスでミニトマト・ミニキャロット・ピーマン、幼児クラスできゅうり・ミニトマト・モロヘイヤ・さつまいもを栽培する。ミニトマトやピーマン、きゅうりなどは成長が早い目に見えてわかりやすく、何度も実を付けるため収穫も多かった。茎や葉の特徴に気づいたり、茎の伸びを手作りのものさしで測ってどれくらい伸びたのかを知ったり、あえて熟させて変化を観察したり、と育てて食べるだけでなくいろいろな経験をしていた。さつまいもは植えてから収穫までの期間が長く、土の下に実るため実の成長がわかりづらいが、日々水やりや雑草抜きなどを行う。秋に収穫の時期を迎えると、想像以上に大きかったことや満足のいく数を収穫できたことに喜びを感じていた。普段何気なく食べている野菜が手間と時間をかけて育ててくれている人を知り、苦手意識のあった野菜に対しても“自分が育てたから食べてみよう”という気持ちを持つなど気づきと気持ちの変化が見られた。



(2) 活動の詳細

① 活動内容

ア. 活動分野（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(日常の保育活動の中で)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（２００～３００字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（２００字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

職員間では係を作り、活動報告をしたり記録を残したりしている。また職員の ESD への理解を深める為、講座を開くこともある。
子どもとの活動では 3～5 歳クラスを中心に行い、その様子を保護者へも知らせている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（２００字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

行っていません

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

行っていません

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

- （3）平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

園としてテーマを決め、そのことについて興味を広げ理解を深めていく。